

地域生活を目指したソーシャルスクリプトを用いた支援Ⅳ

— 社会的ライフスキルのアセスメントと支援 —

企画者・司会者 大槻美智子 (千葉県香取市教育委員会)
話題提供者 氏原 佳香 (山梨県立やまびこ支援学校)
吉井 勲人 (山梨大学大学院教育学域)
鍋谷 梨恵 (山形県立保健医療大学)
長崎 勤 (実践女子大学生生活科学部)
指定討論者 佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)

キー・ワード：スクリプト ソーシャルスキル 豊かな地域生活

【企画趣旨】

スクリプト・フォーマットによる発達支援は、言語コミュニケーションの領域から、社会的スキルの領域へと広がり、近年は就労や余暇活動等の社会参加に向けたソーシャルライフスキルの支援にも活用されるようになった。今回は、この発達支援がより豊かな社会参加をめざすための対象者自身への支援・社会に対して対象者の理解を促す支援・そして対象者を取り巻く周囲の人がより豊かに相互に関わる支援になっていることが確かめられた。

今回は、過去3年間の成果を踏まえて、社会的ライフスキルをより適確にアセスメントし、スクリプト・フォーマットによる支援を行うことでの、更なる可能性について検討する。

【話題提供者の要旨】

話題提供 1 氏原 佳香 (山梨大学大学院教育学域卒)
吉井 勲人 (山梨大学大学院教育学域)

「ASD児へのコミュニケーションと情動調整の発達支援」コミュニケーションと情動調整に課題のあるASD児に対して、複数の文脈を通して発達支援を試みた。コミュニケーションでは、構造化された文脈としての「おやつ」ルーティンを設定して、言語による選択要求の機能を促進した。情動調整では、不快な時に、自分の頭を叩く等の情動調整の不全が頻繁に生じていた実態から、様々な活動の中で自身の情動を安定させるために、情動調整ツールを選択して使用できるように支援した。なお、感覚プロファイルを用いたアセスメントから、対象児は「感覚探求」が非常に高く、感覚処理の内容として口腔感覚が非常に高かったことから、これらに配慮したツールを用意した。その結果、「おやつ」ルーティンでは自発的な言語による選択要求が可能になった。その後、情動調整では、不安定な際に言語と指さしを用いて情動調整ツールを選択して使用できるようになり、情動調整のためのレパートリーも増加した。以上より、ASD児のコミュニケーションと情動調整の変化の関連について検討したい。

話題提供 2 鍋谷 梨恵 (山形県立保健医療大学)

「自閉スペクトラム症者の他者誘導スキル獲得スクリプト」ASD者が他者を道案内するという話は滅多に聞かない。今回、研究者(被誘導者)がアイマスクを着用して廊下に立ち、ASD者にトイレまでの道案内を依頼してみたところ、被誘導者は曲がりくねった廊下の壁に腕が接触したり身体ごと勢いよくぶつかったり、廊下のラウンジスペースに置かれたソファやテーブルに下肢を引っ掛けて躓きそうになったりした。このようなことが起こったあとに初めてASD者は異変に気づき、謝罪し、道案内をやり直そうとした。

そのような彼らの行動を動画で確認したところ、彼らはア

イマスクをかけた被誘導者の姿にほとんど顔を向けずに、自分一人だけで先に歩いて行ってしまったり、逆に曖昧な指示を出しながら被誘導者の後ろをついて歩いて来たりするだけであった。

一方、それを定型発達者に依頼してみたところ、彼らはアイマスクをかけた被誘導者の姿に要所所で顔を向け、「前に」「右に」「左に」「止まって」「まっすぐ進んで」「曲がって」「寄って」「もう少し」「もうちょっと」などの言語指示を活用しながら被誘導者を安全に誘導した。

本話題提供では、ASD者がアイマスク着用者の誘導スキルを道案内スクリプトによって獲得するプロセスを、視線使用と言語使用の変化をも含めて紹介する。

話題提供 3 長崎 勤 (実践女子大学生生活科学部)

「カルピスカフェを通じた他者意図理解とコミュニケーションの支援」

4歳のダウン症A児を対象に、おやつ場面で、他者意図理解とコミュニケーションを促す支援を行った。

まず、大人が作るのを見て、自分で作れるようになり、側にいる母親のカルピスを作るようになった。そこで、①指導者が母親に好みの「カルピス」を尋ねる際に母親を注目する、②母親が選んだ「カルピス」を作る、③それを飲んだ母親が「おいしい」と言うかどうか注目する等を指導目標とし段階的援助を行った。その結果、母親が選択する際に母親を注目することは初期からでき、母親が選んだ「カルピス」を作ることも徐々に可能になり、母親の反応にも注目できるようになった。このことから、母親の選択欲求の意図理解は安定してできるようになったといえる。同時期に、自己欲求(せんたい(温泉行きたい)、自己心的叙述(こわい(できない))、他者心的叙述(パパ心配ねー)等の「心についての言及」も可能になり、情動調整も進んだ。

【指定討論について】

今回の諸話題提供を見ると、社会的ライフスキルとは単なる生活技術ではなく、情動調整や他者意図理解、他者への視線配分・気づきなど、ソフトスキルの要素をも多々含んでいると考えさせられる。スクリプトによって言語や行為のみならず、そのような要素も獲得される道筋や仕組みを自由に討論できたら幸いである。

(文献)

吉井勲人・長崎勤・佐竹真次・宮崎眞・関戸英紀・中村晋 他
2015 社会的ライフスキルを育む-ソーシャルスクリプトによる発達支援-川島書店 他
(OTSUKI Michiko, UJIHARA Yoshika,
YOSHII Sadahito, NABETANI Rie,
NAGASAKI Tsutomu, SATAKE Shinji)